

松阪市子ども支援研究センターだより

E-mail:kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室」TEL 26-1900 FAX 26-1901 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp
松阪教育支援センター「うれしの教室」TEL 42-7374 FAX 42-4568 E-mail: uresino-k@matsusaka.ed.jp

教師のひと言

職員室に入ってきた子どもを見かけた先生が声をかけました。「君は、去年卒業した〇〇さんの弟か。お兄さんにあまり似てないね。」その子は、黙って職員室を出て行きました。

上記の話は架空の例ですが、どこにでもあることではないでしょうか。どのような感想をもたれましたか？

弟は、兄と比べられることを嫌っていたり、劣等感を持っていたりするかもしれません。また、父親が違ったり母親が違ったり、あるいは、両親ともに違うかもしれません。個人情報that得にくい時代ですので、詳しい家庭環境や生育歴がわからない場合が多くなっています。しかし、言われた子どもの立場からすれば、「知らなかった」「悪気はなかった」ではすまされないでしょう。

われわれが園や学校で、毎日子どもたちといっしょに生活する中、黙って見守っていたり、声をかけたりする場面は多々あります。そのタイミングだったり、言葉だったり、子どもにとってベストな形を考えて声かけをします。そのたびに「今のよかったのかな？」と反省します。特に、叱った後はこちらも後味の悪い疲労感が残ります。でも、ほめてばかりというわけにもいきません。



「恩師のひと言が、人生を変えた」「心のよりどころになった」という話があります。ところが、私自身思い返してみると、やはり、多くの子どもの傷つけてきたことでしょう。「先生のせいで・・・」と言われても「先生のおかげで・・・」とはあまり言われたことがないような・・・

正月休みに大型ショッピングセンターで、突然、店員から「先生！私覚えとる！？」と大きな声で言われました。幸い、その店員の名前はすぐに出てきたのでよかったのですが、実は教え子からのこの質問が一番困ります。顔は覚えているけれども名前が出てこない、どこの中学校（私の場合は）だったか、どの年代だったか、思い出すのに、つつい同級生で一番目立っていた生徒の名前を聞いてしまいます。その後、店内で話がはずみ、「学年の同窓会をしよう。」ということになりました。今から計画し連絡するとなると、GW かお盆頃でしょうか。そのとき「せいで」の話になるのか「おかげで」になるのか、今から心配でもあり楽しみでもあります。

(所長 藪 晃明)

「松阪市 教育の情報化フォーラム」を開催しました！

1月12日（木）、松阪市がこれまで取り組んできた教育の情報化の「これまで」「今」「これから」の取組について広く発信することを目的に、松阪市農業屋コミュニティ文化センターにおいて、「松阪市教育の情報化フォーラム」を開催しました。

松阪市は、平成23年度から、三雲中学校を実証校として、タブレット端末などICT機器を活用した教育の情報化に取り組んできました。それから5年、新しい学びの創造を目指した取組を通して見えてきた成果を発信し、これからの取組について考え合う機会となりました。



当日は、文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報教育振興室 稲葉 敦 様より、「教育の情報化の動向と今後の展望」と題して、基調講演をいただきました。学習指導要領改訂等の動向や、その中で描かれた教育の情報化が目指すもの、教科指導におけるICT活用の推進など、最新の教育情勢を踏まえて、国における教育の情報化の方向性をお示しいただきました。

山本 嘉 教育政策統括マネージャー兼学校支援課長からは、「松阪市 教育の情報化～『これまで』『今』『これから』～」と題して、社会や世界に向き合い、関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力の育成、そのための教育の情報化であること、これまでの松阪市の取組、そして、新しい松阪市の教育ビジョンと重ね合わせながら、今後の展望について話をしました。

続いて、タブレットPCが導入されている3中学校から、各学校の取組が、それぞれ大学の先生との対話形式で発信されました。殿町中学校 市野 嘉也 教諭は、生徒アンケートから見えてきた子どもたちに付きつつある力と、ICTの活用、そして先生方の研修の推進について、奈良教育大学教職大学院 小柳 和喜雄 教授とやり取りしながら発表しました。続いて、三雲中学校 楠本 誠 指導教諭と、静岡大学 学術院教育学領域 益川 弘如 准教授のトークから、全国でも先駆的に導入された三雲中の努力と、協働学習を柱とした授業づくりの取組などを発信しました。最後に、飯高中学校 平野 修 教諭と、金城学院大学 国際情報学部 長谷川 元洋 教授のトークを通して、飯高中学校が全国でも先進的に取り組んできた資質・能力の取組について、データも示しながら紹介しました。

プログラムの最後に行われたパネル・ディスカッションでは、子どもたちにこれからつけていきたい力、ICTを活用した学習活動の広がり、そして、今後の松阪市の取組について、有識者の皆様のそれぞれから、スライドも交えてお話しいただきました。

文部科学省や、大学の先生方の知見が松阪市の取組とつながって、たくさんの気づきをいただく、3時間のフォーラムとなりました。

